

されば **よ**と、いみじう心憂し **と** 思へ **とも**、言はむやう **も** 知ら **て** ある
終助 格助 格助 形ク・終 四段・已 接助 四段・未 係助 四段・未 ラ変・未

ほど **に**、二日三日ばかりあり **て**、曉方 **に** 門 **を** たたく時あり。
格助 (ふつかみか) ラ変・用 (あかつきがた) (かど) 四段・体 ラ変・終 副助 接助 格助 格助

うちに、二、三日ほどして、明け方に門を叩く(音のする)時があった。

副助 推定「めり」終 格助
 さ **な** めり **と** 思ふ **に**、憂く **て**、開けさせね **は**、例 **の** 家 **と**
断定「なり」体(撥音便) 四段・体 接助 形ク・用 下二・未 打消「ず」已 使役「さす」未 接助 格助 格助

そのようだ(兼家が来たようだ)と思うと、不愉快で、(家の者に)開けさせなかつたところ、
 例の(町小路の女の)家と

形シク・体
 おぼしきところ **に** ものしたり。つとめて、なほ **も** あらじ **と** 思ひ **て**、
サ変・用 格助 完了「たり」終 副助 係助 打消意思「じ」終 接助 格助 四段・用 接助

思われるところに行つてしまった。翌朝、やはりこのままではいられないと思つて、

四段・用
 嘆き **つ**つ ひとり寝る夜 **の** あくる間 **は** いかにかしき **もの** **と** か **は** 知る
接助 下二・体 下二・体 係助 形シク・体 格助 係助(反語) 四段・体(結)

嘆きながら一人で寝る夜が明けるまでの間がどれほど長いものか(あなたは)お分かりですか
 (分からないでしょうね)

格助 **と**、例 **より** **は** ひき繕ひ **て** 書き **て**、うつろひたる菊 **に** さしたり。返り言、
格助 格助 係助 接頭語+四段・用 四段・用 四段・用 格助 完了「たり」終 四段・用 格助 四段・用

と、いつもより改まつて書いて、色あせた菊に挿して送つた。返事は、

下二・体
 「明くる **まで** **も** 試みむ **と** しつれ **ど**、とみなる召し使ひ **の** 来合ひたり
副助 係助 意思「む」終 サ変・用 接助 形動ナリ・体 格助 完了「たり」用 四段・用

「夜が明けるまで待とうとしたけれど、急用を告げる召使いが来合せ

つれ **ば** **な**む。いとことわりなりつる **は**。
接助 係助 副助 完了「つ」体 形動ナリ・用 係助

たので。(あなたが怒るのも)たいへんもつともなことです。

副助 間助
 げ **に** **や** げ **に** 冬 **の** 夜 **ならぬ** まき **の** 戸 **も**
格助 打消「ず」体 格助 係助 断定「なり」未

本当に、冬の夜ではないけれど、まきの戸も

形ク・用 下二・体
 おそく **あ**くる **は** わびしかりけり
係助 詠嘆「けり」終 形シク・用

遅く開くの(を待つ)のはしほいことです「や

いみじ…はなはだしい
 よい・ひどい

心憂し…情けない・つらい
 不快だ

言はむやう…言いよう

ほど…うち・時(時間の程度)

ばかり…ほど

憂し…つらい・いやだ

おぼし…思われる・思っている

ものす…行く・来る
 いる・ある

生まれる・死ぬ

なほ…やはり・それでもやはり

久し…長い

ひきつくろふ…体裁を繕う
 身なりを整える

とみなり…急に

いと…非常に

ことわりなり…もつともだ
 道理だ

げに…本当に
 なるほど

わびし…つらい

興ざめた
 情けない